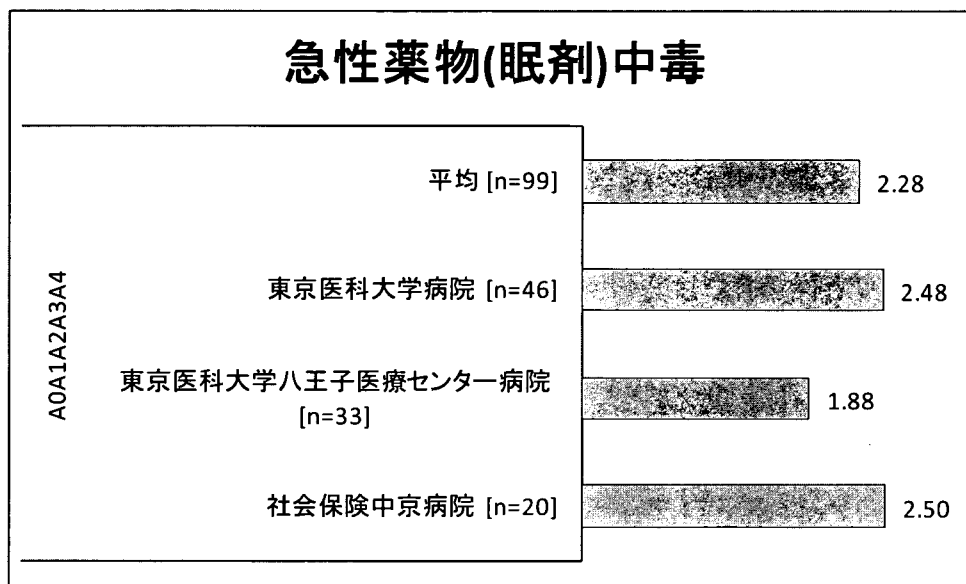
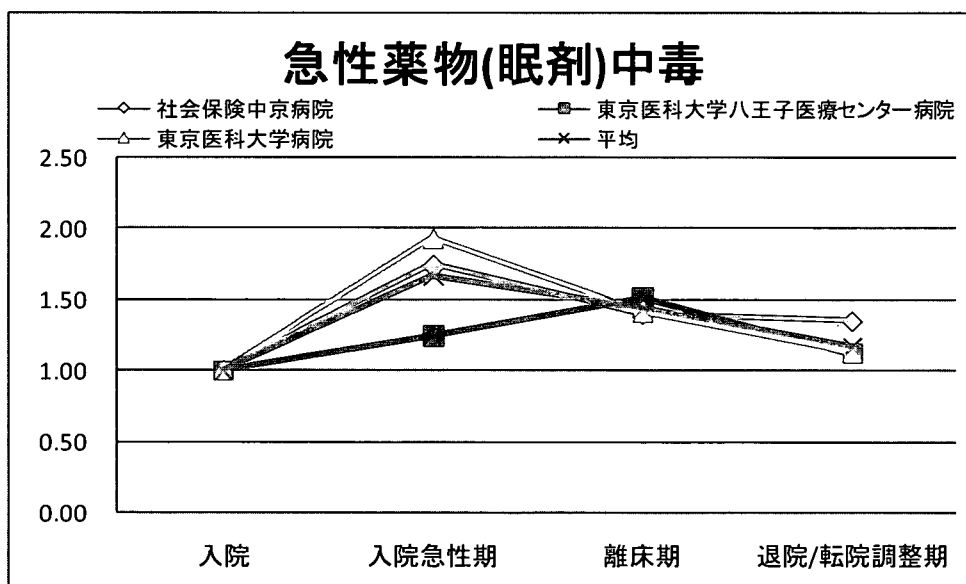


## 【中間集計】



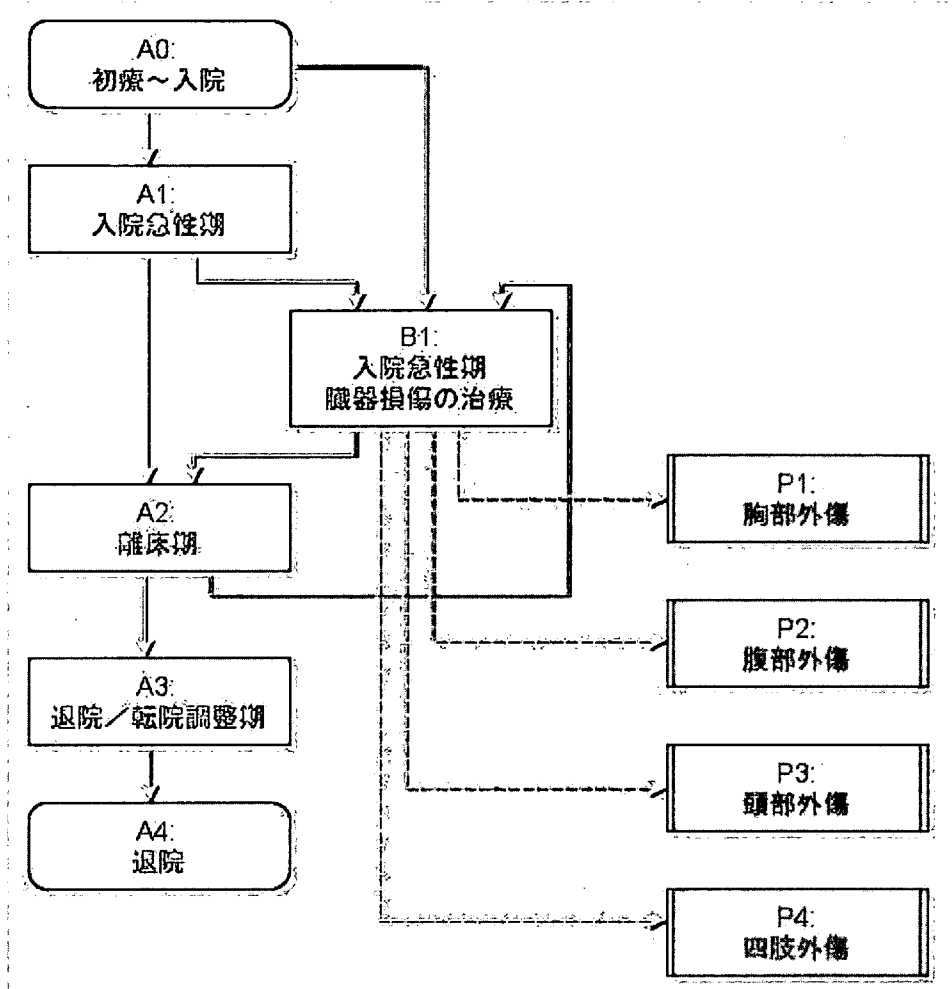
急性薬物（眠剤）中毒の平均在院日数比較



急性薬物（眠剤）中毒のユニット滞在日数比較

# 【中間集計】

来院時軽症外傷



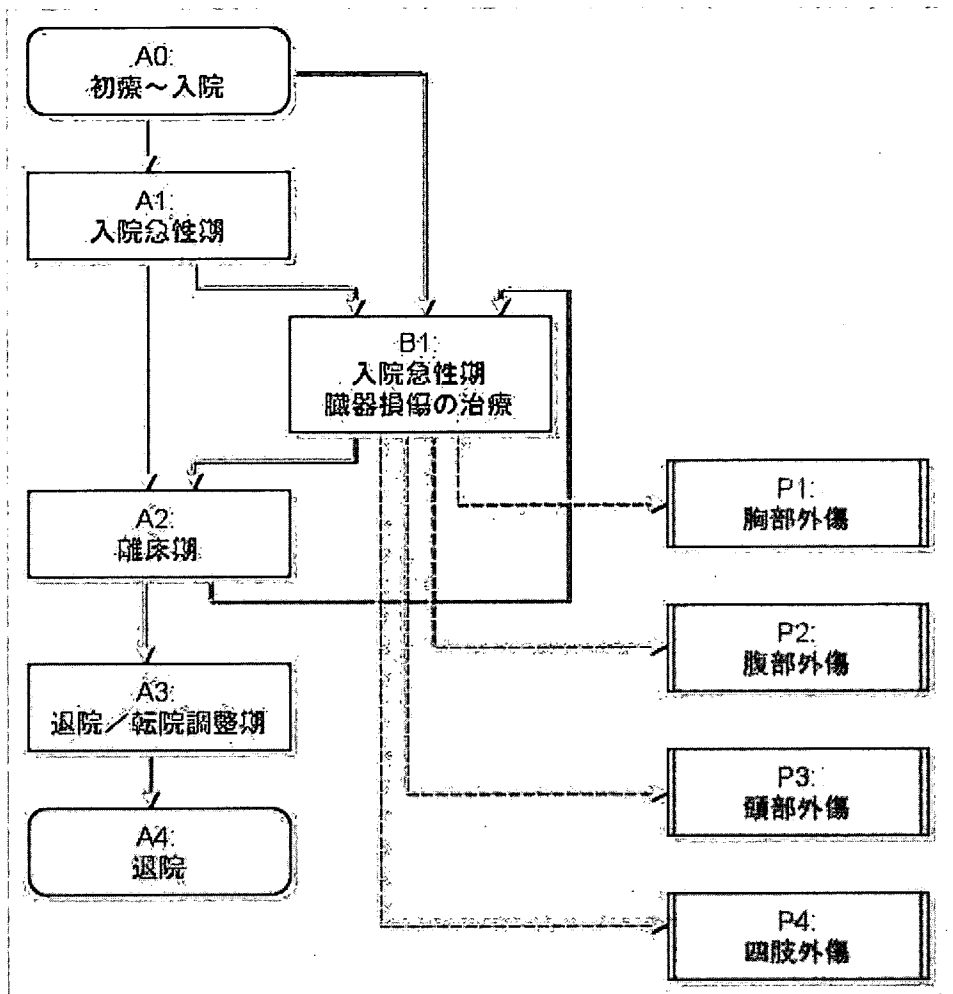
# 【中間集計】

## 移行ロジック一覧 来院時軽症外傷

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0：初療～入院	外傷は軽微でも、既往疾患のリスクもしくは感染症がある or 健忘、吐気嘔吐、頭痛、腹痛、軽度の低酸素血症、発熱の症状がある or 画像等のスクリーニングで臓器損傷、骨折は指摘できない or その他経過観察目的に入院が薦められる	A1：入院急性期	
	入院治療を要する胸部・腹部・頭部・四肢外傷が明らかである	B1：入院急性期 臓器損傷の治療	
A1：入院急性期	呼吸、循環に異常がない and A-0の症状の増悪がなく、新たな症状が出ていない and 腹部理学的所見に異常がない and 十分な尿量が得られる（維持輸液量以上の輸液は必要ない） and 再検した血液検査、画像所見などに異常がない and 意識清明で会話や人格はいつもと変わらない	A2：離床期	
	入院治療を要する胸部・腹部・頭部・四肢外傷が明らかになった	B1：入院急性期 臓器損傷の治療	
A2：離床期	自立座位、歩行が可能 and 自覚症状の増悪がない and 食事摂取が問題なくできる and 経口摂取主体で（または抜針後）、尿量が得られている	A3：退院／転院調整期	
	入院治療を要する胸部・腹部・頭部・四肢外傷が明らかになった	B1：入院急性期 臓器損傷の治療	
A3：退院／転院調整期	臓器損傷がないか、治療が終了 and 退院調整の完了（外来治療の要否判断を含む）	A4：退院	
B1：入院急性期/臓器損傷の治療	バイタルサインの安定 and 臓器損傷（Pユニット）の治療が終了	A2：離床期	
	入院治療を要する胸部が明らかになった	P1：胸部外傷	並行
	入院治療を要する腹部が明らかになった	P2：腹部外傷	並行
	入院治療を要する頭部が明らかになった	P3：頭部外傷	並行
	入院治療を要する四肢外傷が明らかになった	P4：四肢外傷	並行

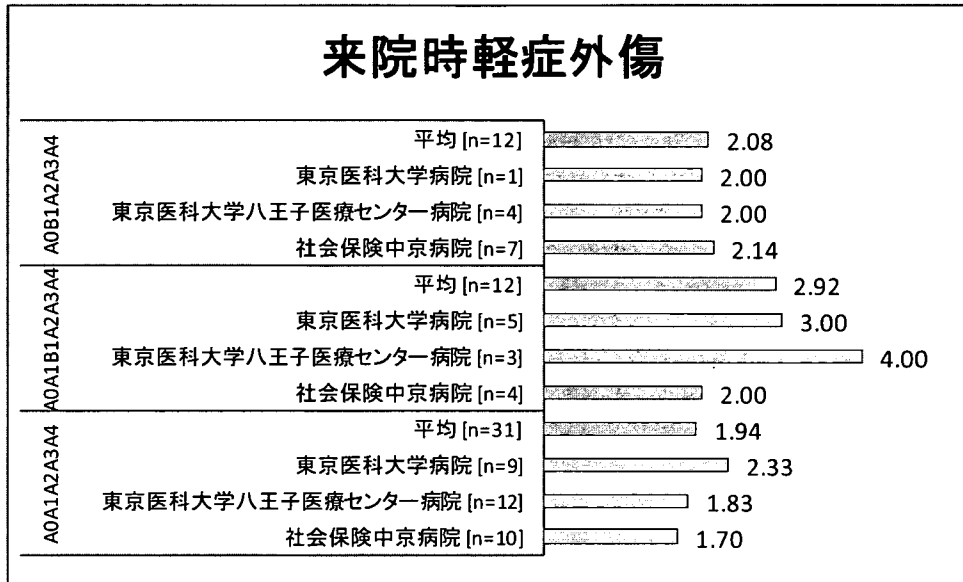
## 【中間集計】



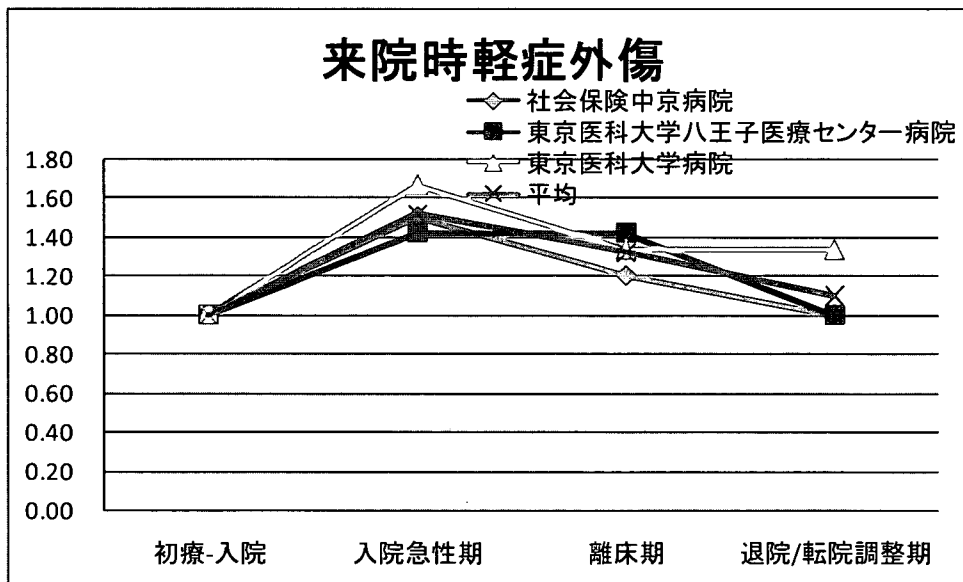
来院時軽症外傷の経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
来院時軽症外傷	A0-A1-A2-A3-A4	31	54.4%	○	100.0%
	A0-A1-B1-A2-A3-A4	12	21.1%	○	
	A0-B1-A2-A3-A4	12	21.1%	○	
	A0-B1	2	3.5%	○	
	計	57	100.0%		

## 【中間集計】



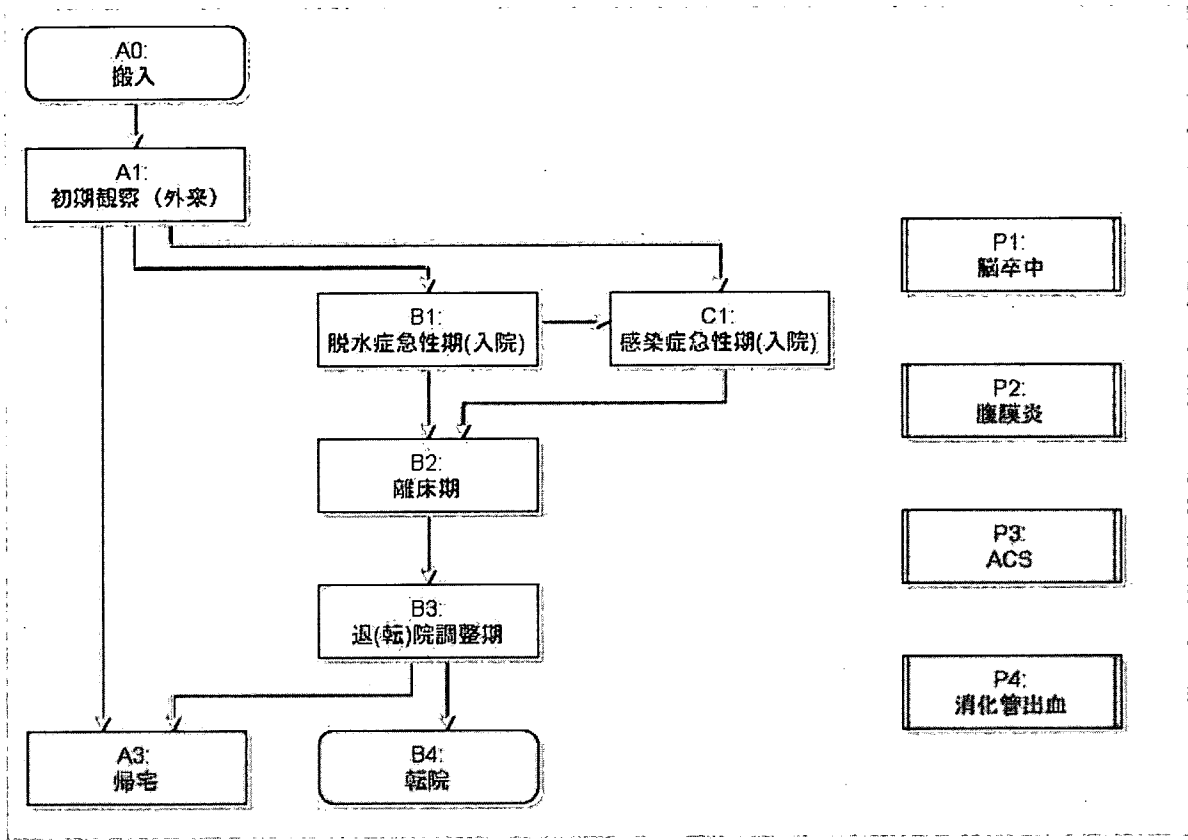
来院時軽症外傷の平均在院日数比較



来院時軽症外傷のユニット滞在日数比較

# 【中間集計】

高齢者救急



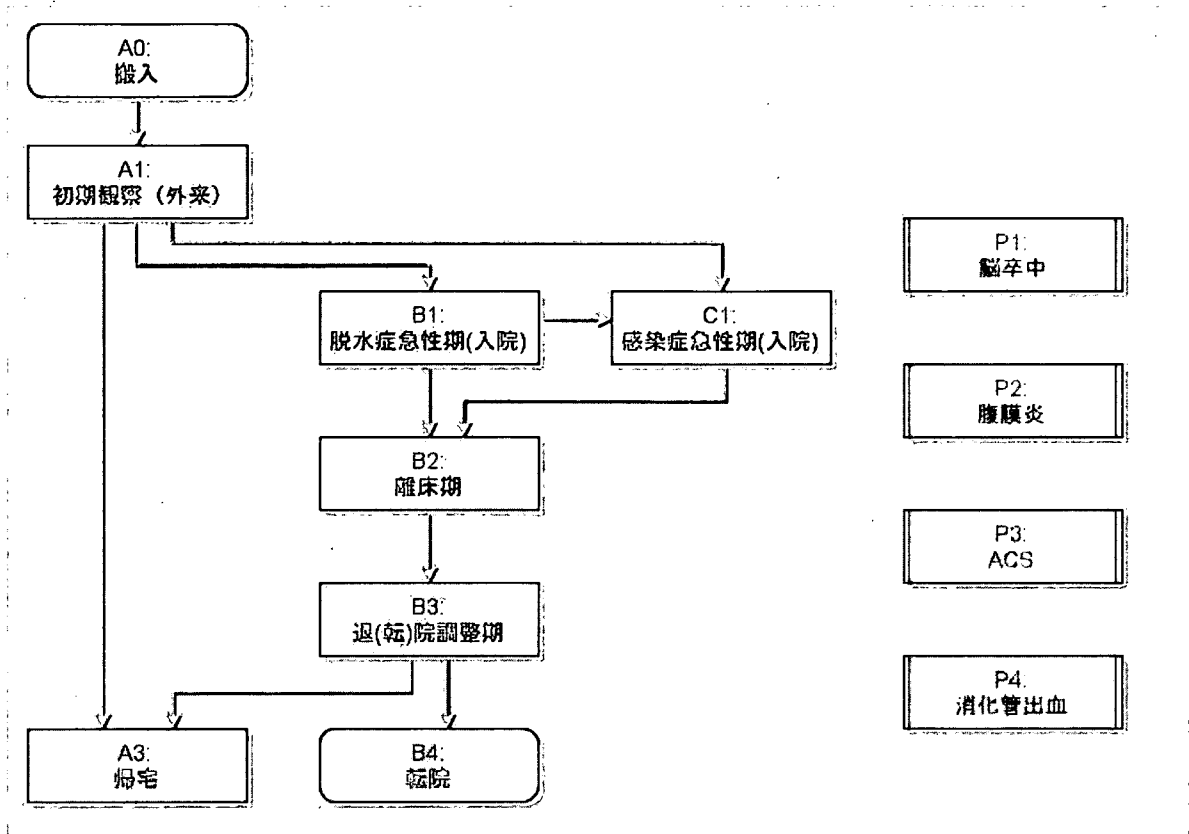
# 【中間集計】

## 移行ロジック一覧 高齢者救急

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0: 搬入	A1に進み急速輸液負荷 (500ml/hr以上) 開始	A1: 初期観察 (外来)	
A1: 初期観察 (外来)	輸液で速やかに症状が改善し、入院しなくてよい	A3: 帰宅	
	輸液負荷で、意識レベルが改善し、HR/SBPが低下(改善)したが入院治療が必要	B1: 脱水症急性期(入院)	
	輸液負荷により臓器低灌流症状(意識障害、血圧低下、乏尿)が改善せず、炎症所見があり入院が必要	C1: 感染症急性期(入院)	
	CT、MRI-CTなどで脳卒中が判明した	P1: 脳卒中	並列
	腹部理学的所見やCTなどにより腹膜炎が判明した	P2: 腹膜炎	並列
	Acute Coronary Syndrome が判明した	P3: ACS	並列
	消化管出血	P4: 消化管出血	並列
B1: 脱水症急性期(入院)	臓器低灌流徴候(意識障害、血圧低下、乏尿など)が輸液負荷により改善し、離床可能	B2: 離床期	
	臓器低灌流徴候(意識障害、血圧低下、乏尿など)が輸液負荷により改善しない、または感染源判明あるいはCRP高度上昇を認める	C1: 感染症急性期(入院)	
	脳卒中が判明した	P1: 脳卒中	並列
	腹膜炎が判明した	P2: 腹膜炎	並列
	後にACSが判明した	P3: ACS	並列
	消化管出血が判明した	P4: 消化管出血	並列
B2: 離床期	離床、転院・退院を検討できる状態になった	B3: 退(転)院調整期	
B3: 退(転)院調整期	自立できる or 介護者(老健施設)が存在する	A3: 帰宅	
	自立できない、かつ転院先が決まった or 自宅では介護が受けられない、かつ転院先が決まった	B4: 転院	
C1: 感染症急性期(入院)	意識障害、血圧低下、乏尿など臓器低灌流症状が改善し、感染徴候(発熱、CRPの著増)が改善した	B2: 離床期	
	脳卒中が判明した	P1: 脳卒中	並列
	腹膜炎が判明した	P2: 腹膜炎	並列
	ACSが判明した	P3: ACS	並列
	消化管出血が判明した	P4: 消化管出血	並列

## 【中間集計】

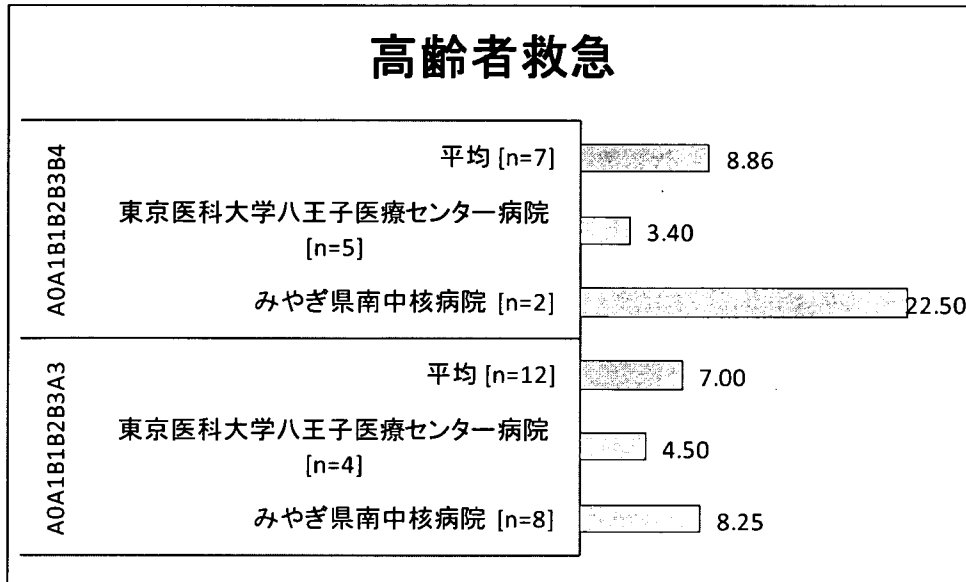


高齢者救急の経路パターンとカバー率

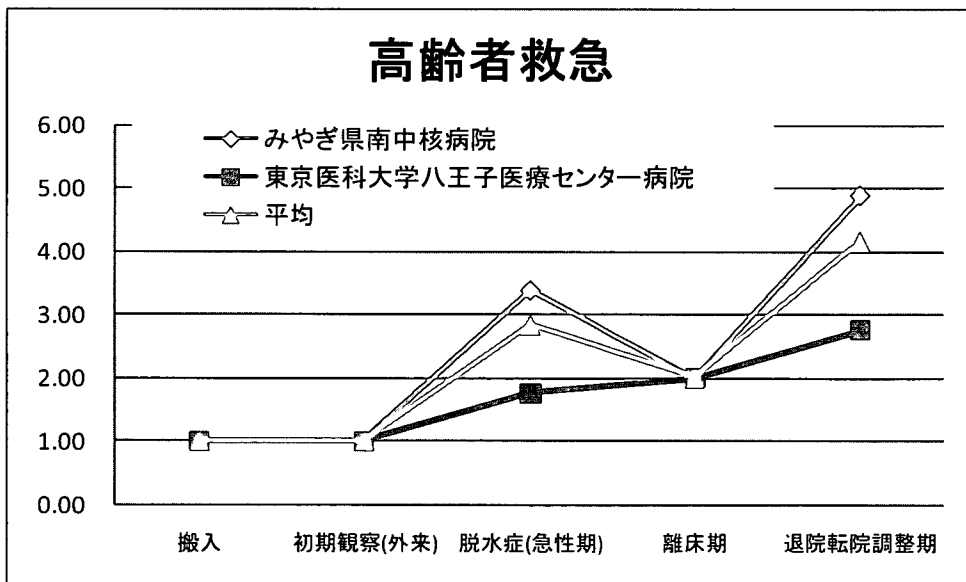
パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
高齢者救急	A0-A1-B1-B2-B3-A3	12	26.7%	○	95.6%
	A0-A1-A3	8	17.8%	○	
	A0-A1-C1-B2-B3-A3	8	17.8%	○	
	A0-A1-B1-B2-B3-B4	7	15.6%	○	
	A0-A1-B1-C1-B2-B3-B4	3	6.7%	○	
	A0-A1-B1	2	4.4%	○	
	A0-A1-B1-B2	1	2.2%	○	
	A0-A1-B1-C1-B2-B3-A3	1	2.2%	○	
	A0-A1-C1	1	2.2%	○	
	A0-A1-B1-B4	1	2.2%	×	
	A0-A1-B1-C1-B3-B4	1	2.2%	×	
	計	45	100.0%		



# 【中間集計】



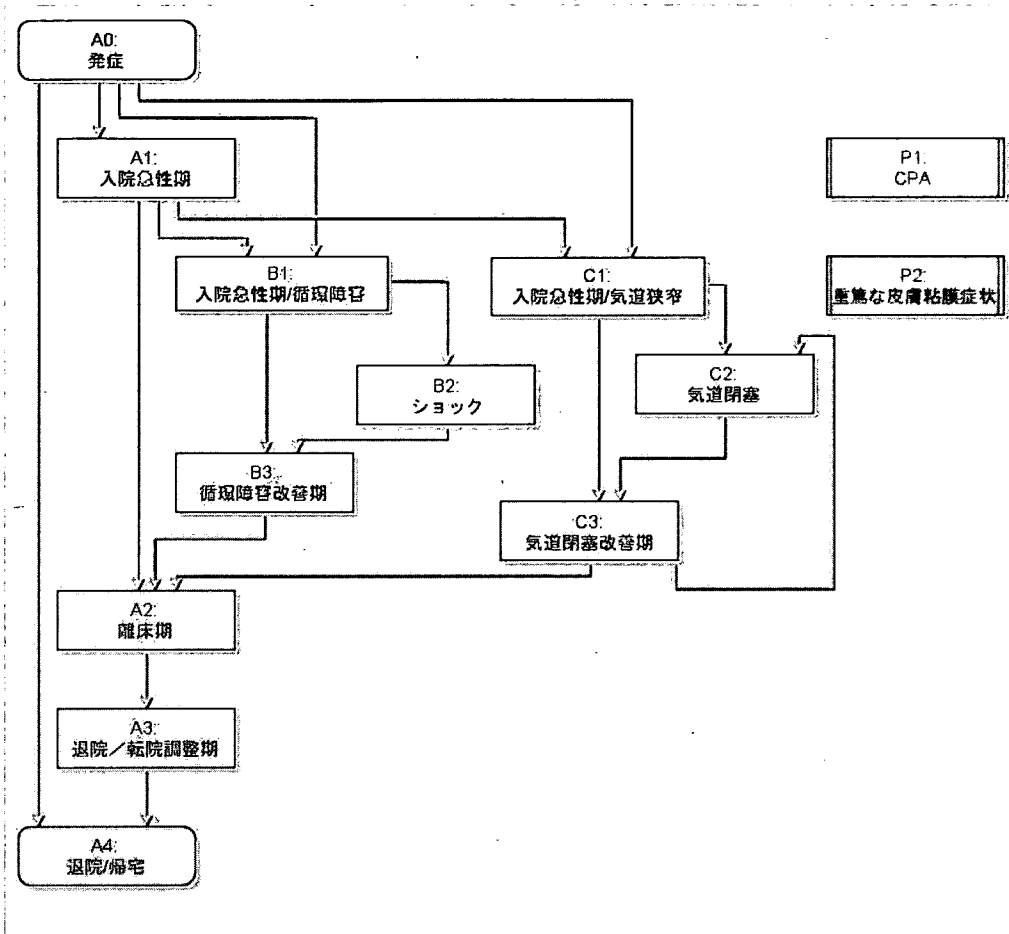
高齢者救急の平均在院日数比較



高齢者救急のユニット滞在日数比較

# 【中間集計】

アナフィラキシー



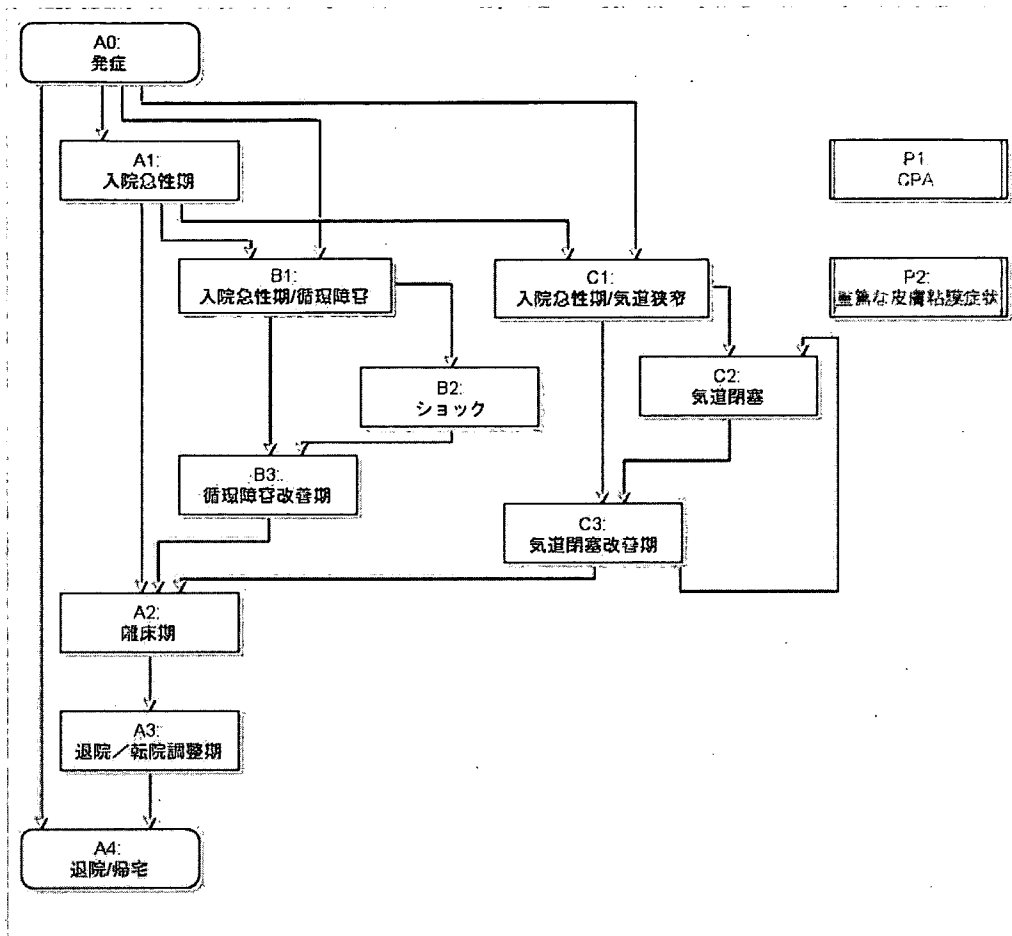
# 【中間集計】

## 移行ロジック一覧 アナフィラキシー

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0: 発症	気道狭窄、頻呼吸、血圧低下、頻脈のいずれも認めない	A1: 入院急性期	
	軽微な皮膚発赤または血圧低下のみで早期に症状消失	A4: 退院/帰宅	
	頻呼吸、血圧低下、頻脈など組織循環不全の徴候を認める	B1: 入院急性期/循環障害	
	嘔声、呼吸困難の所見を認める	C1: 入院急性期/気道狭窄	
	CPAとなった	P1: CPA	並列
A1: 入院急性期	重篤な皮膚粘膜症状を認める	P2: 重篤な皮膚粘膜症状	並列
	24時間以上気道狭窄・頻呼吸・血圧低下・頻脈を認めない、皮膚紅潮を認めない、掻痒を訴えない	A2: 離床期	
	頻呼吸、血圧低下、頻脈など組織循環不全の徴候が出現した	B1: 入院急性期/循環障害	
	嘔声、呼吸困難の所見が出現した	C1: 入院急性期/気道狭窄	
	CPAとなった	P1: CPA	並列
A2: 離床期	重篤な皮膚粘膜症状	P2: 重篤な皮膚粘膜症状	並列
	バイタルサインが安定し、病棟内歩行可	A3: 退院/転院調整期	
A3: 退院/転院調整期	合併症の併発がないか治療が終了 and 退院または転院の受け入れ環境の完了	A4: 退院/帰宅	
B1: 入院急性期/循環障害	急速輸液に反応しない血圧低下の場合、挿管してB2へ	B2: ショック	
	急速輸液により循環が安定した	B3: 循環障害改善期	
	CPAとなった	P1: CPA	並列
B2: ショック	重篤な皮膚粘膜症状	P2: 重篤な皮膚粘膜症状	並列
	ショックを離脱したら、抜管してB3へ	B3: 循環障害改善期	
	CPAとなった	P1: CPA	並列
B3: 循環障害改善期	重篤な皮膚粘膜症状が出現した	P2: 重篤な皮膚粘膜症状	並列
	24時間以上気道狭窄、頻呼吸、血圧低下、頻脈がない	A2: 離床期	
	CPAとなった	P1: CPA	並列
C1: 入院急性期/気道狭窄	意識障害時の同一体位による褥瘡がある	P2: 重篤な皮膚粘膜症状	並列
	気道閉塞の所見を認める場合、挿管してC2へ	C2: 気道閉塞	
	気道閉塞に至らない	C3: 気道閉塞改善期	
C2: 気道閉塞	CPAとなった	P1: CPA	並列
	重篤な皮膚粘膜症状を認める	P2: 重篤な皮膚粘膜症状	並列
	気道閉塞が改善したら抜管してC3へ	C3: 気道閉塞改善期	
C3: 気道閉塞改善期	CPAとなった	P1: CPA	並列
	重篤な皮膚粘膜症状が出現した	P2: 重篤な皮膚粘膜症状	並列
	気道狭窄の所見を認めない	A2: 離床期	
A0: 発症	抜管後気道閉塞をきたした場合、挿管してC2へ	C2: 気道閉塞	
	CPAとなった	P1: CPA	並列
	P2: 重篤な皮膚粘膜症状	P2: 重篤な皮膚粘膜症状	並列

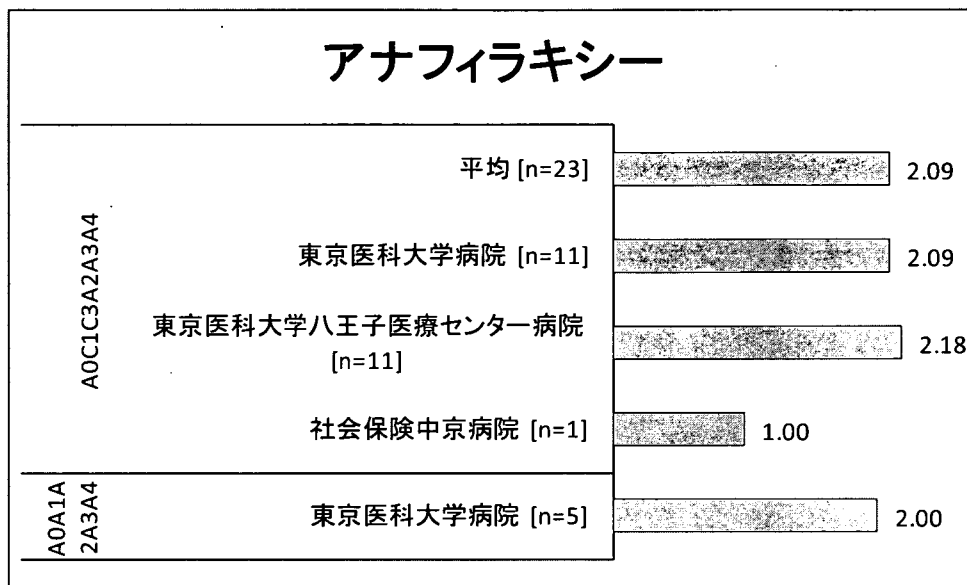
## 【中間集計】



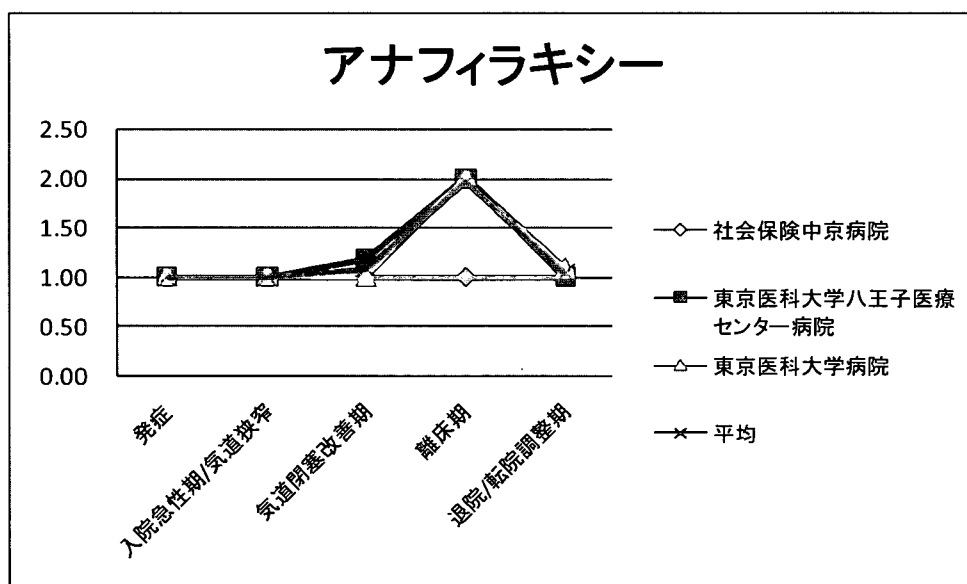
アナフィラキシーの経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
アナフィラキシー	A0-C1-C3-A2-A3-A4	23	46.9%	○	100.00%
	A0-B1-B2-B3-A2-A3-A4	10	20.4%	○	
	A0-A4	7	14.3%	○	
	A0-A1-A2-A3-A4	5	10.2%	○	
	A0-B1-B3-A2-A3-A4	3	6.1%	○	
	A0-A1-C1-C3-A2-A3-A4	1	2.0%	○	
	計	49	100.0%		

## 【中間集計】



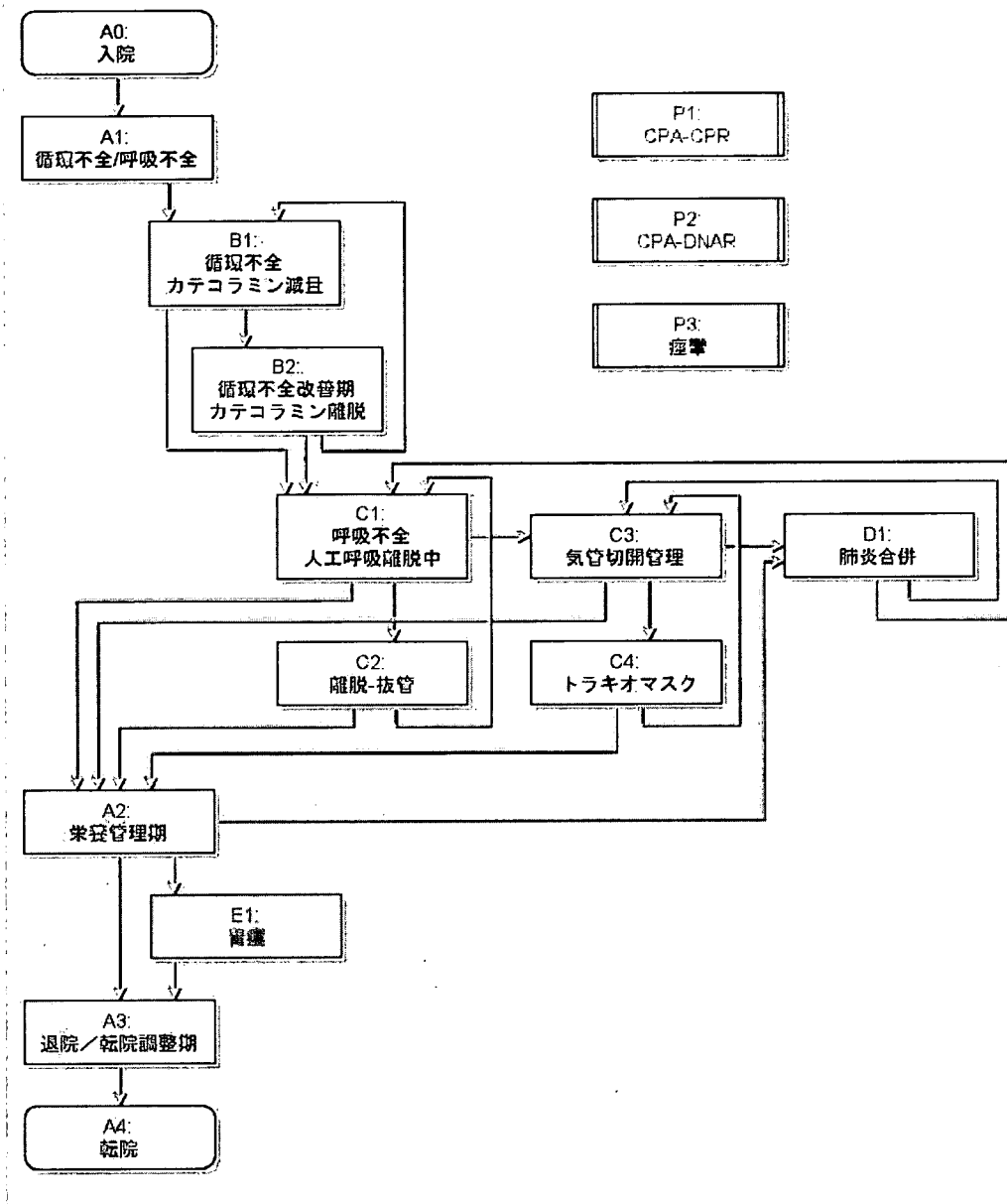
アナフィラキシーの平均在院日数比較



アナフィラキシーのユニット滞在日数比較

# 【中間集計】

## 蘇生後脳症



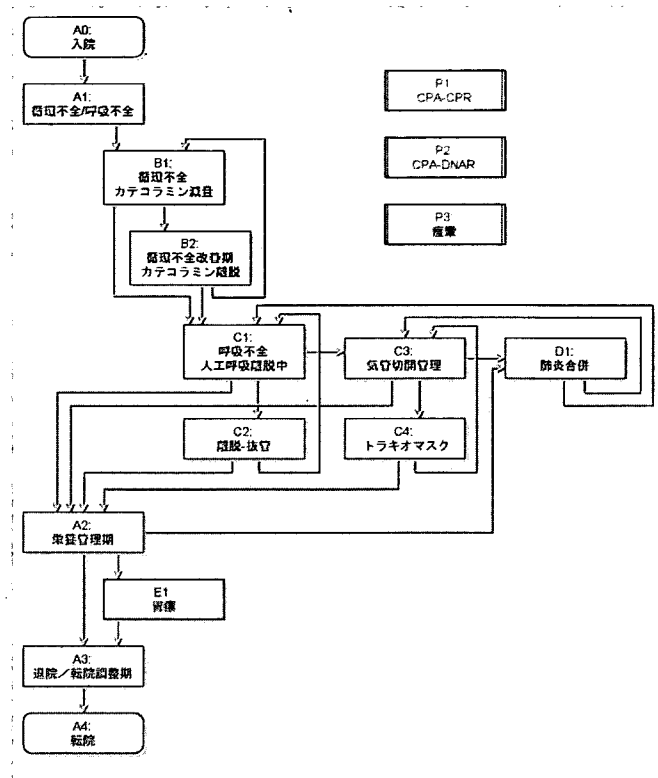
# 【中間集計】

## 移行ロジック一覧 蘇生後脳症

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0：入院	人工呼吸を要する or カテコラミンを要する CPAとなった and CPRを要する	A1：循環不全/呼吸不全	
		P1：CPA-CPR	並列
A1：循環不全/呼吸不全	CPAとなった and DNARオーダーがある 意識レベル低下が遷延している	P2：CPA-DNAR	並列
		B1：循環不全 カテコラミン減量	
A2：栄養管理期	CPAとなった and CPRを要する CPRとなった and DNARオーダーがある 痙攣発作を認める	P1：CPA-CPR	並列
		P2：CPA-DNAR	並列
A3：退院/転院調整期	肺炎などの感染がコントロールされている and 経管栄養に移行できている 肺炎を合併した 経管栄養に移行できている and 胃瘻造設の同意が得られた	A3：退院/転院調整期	
		D1：肺炎合併	
B1：循環不全/カテコラミン減量	CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある	P1：CPA-CPR	並列
		P2：CPA-DNAR	並列
B2：循環不全改善期/カテコラミン離脱	循環維持のためのカテコラミンが不要になった 循環維持のためのカテコラミンが3日以上offできない CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある 痙攣発作を認める	A4：転院	
		P1：CPA-CPR	並列
C1：呼吸不全/人工呼吸離脱中	退院または転院の受け入れ環境の完了 (転院先が決まった、あるいは退院準備ができた) CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある	P2：CPA-DNAR	並列
		B2：循環不全改善期 カテコラミン離脱	
C2：離脱-抜管	循環維持のためのカテコラミンが不要になった 循環維持のためのカテコラミンが3日以上offできない CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある 痙攣発作を認める	C1：呼吸不全 人工呼吸離脱中	
		P1：CPA-CPR	並列
C3：気管切開管理	痙攣発作を認める 血圧低下をきたし再びカテコラミンを要した カテコラミンoff後血圧低下を認めない CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある 痙攣発作を認める	P2：CPA-DNAR	並列
		P3：痙攣	並列
C4：トラキオマスク	3日以上weaningが進まない and 気管切開の同意が得られない and 痙攣がコントロールされている (人工呼吸のまま転院調整へ) weaningが進み抜管可能な状態になった 3日以上weaningが進まない and 気管切開の同意を得た	B1：循環不全 カテコラミン減量	
		C1：呼吸不全 人工呼吸離脱中	
D1：肺炎合併	CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある 痙攣発作を認める	P1：CPA-CPR	並列
		P2：CPA-DNAR	並列
E1：胃瘻	痙攣発作を認める 自発呼吸が不十分で人工呼吸を要する状態が継続している and 痙攣がコントロールされている (気管切開で人工呼吸のまま転院調整せざるをえない) 自発呼吸が十分な状態になった 肺炎を合併した	P3：痙攣	並列
		A2：栄養管理期	
E1：胃瘻	CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある	C2：離脱-抜管	
		C3：気管切開管理	
E1：胃瘻	CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある	P1：CPA-CPR	並列
		P2：CPA-DNAR	並列
E1：胃瘻	CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある	P3：痙攣	並列
		A2：栄養管理期	
E1：胃瘻	CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある	C4：トラキオマスク	
		D1：肺炎合併	
E1：胃瘻	CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある	P1：CPA-CPR	並列
		P2：CPA-DNAR	並列
E1：胃瘻	CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある	P3：痙攣	並列
		A3：退院/転院調整期	
E1：胃瘻	CPAとなった and CPRを要する CPAとなった and DNARオーダーがある	P1：CPA-CPR	並列
		P2：CPA-DNAR	並列

# 【中間集計】

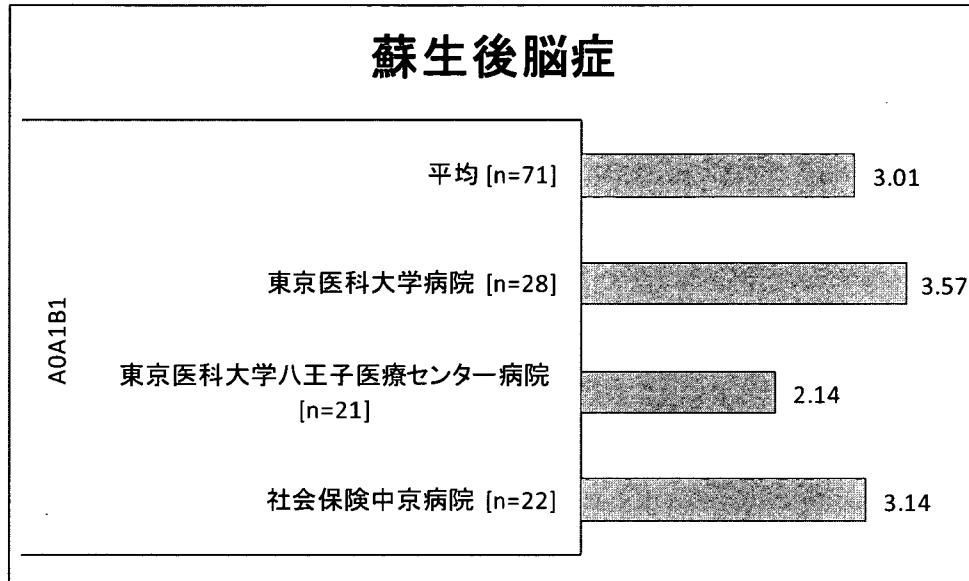


蘇生後脳症の経路パターンとカバー率

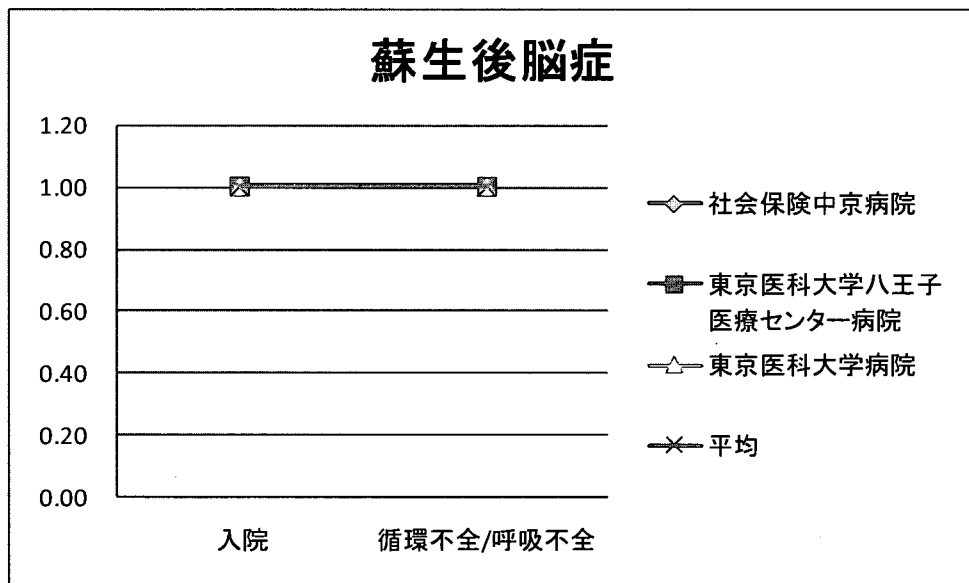
パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
蘇生後脳症	A0-A1-B1	71	65.7%	○	98.1%
	A0-A1	9	8.3%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-C2-A2-A3-A4	4	3.7%	○	
	A0-A1-B1-B2-B1-C1-C1	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-A2-A3	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-A2-A3-A4	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-A2-D1	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-C2	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-C2-A2-A3	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-C2-A2-E1-A3-A4	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-C2-C1-A2	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-C3-A2	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-C3-A2-A3	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-C3-A2-A3-A4	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-C3-C4-A2-A3-A4	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-C3-C4-A2-D1-C1-A2-A3-A4	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-B2-C1-C3-D1-C1-A2-A3-A4	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-C1	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-C1-C2-A2-A3-A4	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-C1-C3	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-C1-C3-A2	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-C1-C3-C4-A2-A3-A4	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-C1-C3-D1-C3-C4-A2-A3-A4	1	0.9%	○	
	A0-A1-B1-C1-D1-C3-D1	1	0.9%	○	
	A0-A1-A4	2	1.9%	×	
	計	108	100.0%		



## 【中間集計】



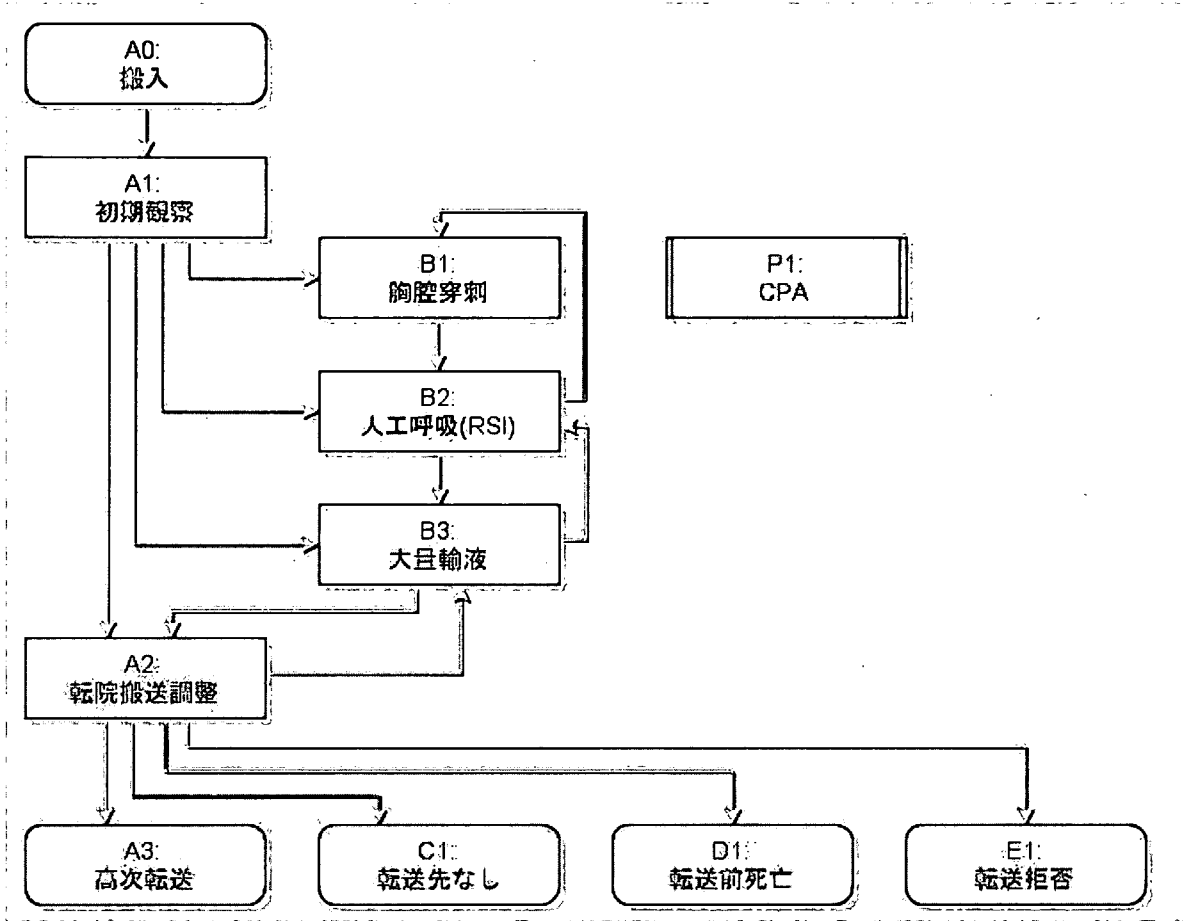
蘇生後脳症の平均在院日数比較



蘇生後脳症のユニット滞在日数比較

# 【中間集計】

## 高次転送



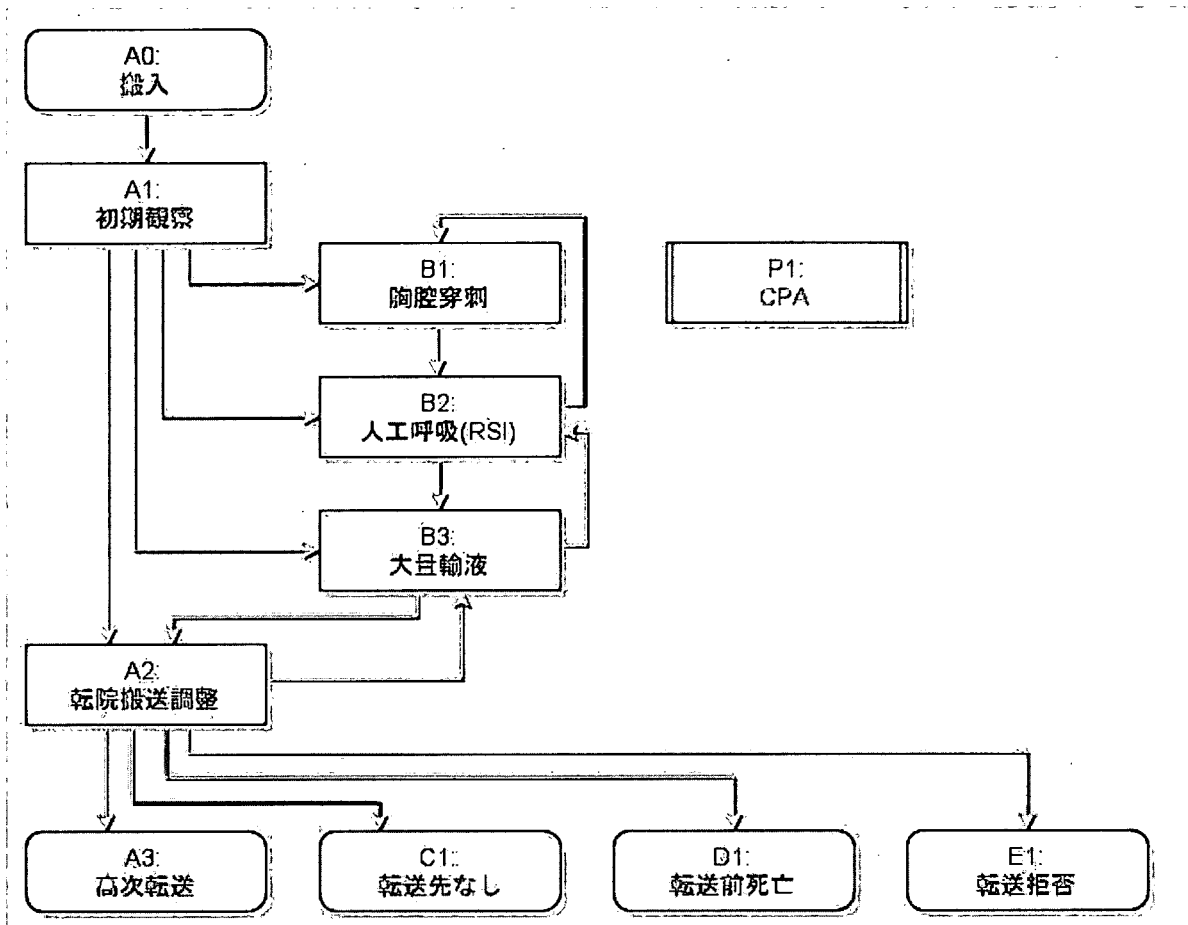
# 【中間集計】

## 移行ロジック一覧 高次転送

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0：搬入	無条件で移行	A1：初期観察	
	CPAIになった	P1：CPA	並列
A1：初期観察	蘇生処置を行わずに未処置のまま高次転送先受け入れ	A2：転院搬送調整	
	気道内圧上昇	B1：胸腔穿刺	
	さ声、陥没呼吸、低酸素血症、高度意識障害、著明な不 穩、血圧低下が見られるとき	B2：人工呼吸(RS1)	
	血圧低下、大量外出血、HR/SBP>1.0の時	B3：大量輸液	
	CPAIになった	P1：CPA	並列
A2：転院搬送調整	高次転送先受け入れ、転送へ	A3：高次転送	
	血圧低下、頻脈、HR/SBP>1.0が出現	B3：大量輸液	
	受け入れ病院が見つからない	C1：転送先なし	
	転送前に死亡した	D1：転送前死亡	
	転送の同意が得られない(転送拒否)	E1：転送拒否	
	CPAIになった	P1：CPA	並列
B1：胸腔穿刺	胸腔ドレナージの確認完了	B2：人工呼吸(RS1)	
	CPAIになった	P1：CPA	並列
B2：人工呼吸(RS1)	気道内圧上昇、呼吸音消失、血圧低下、皮下気腫、気胸 判明など	B1：胸腔穿刺	
	血圧低下、HR/SBP>1.0の場合	B3：大量輸液	
	CPAIになった	P1：CPA	並列
B3：大量輸液	特に移行の条件なし。全開輸液	A2：転院搬送調整	
	不穩、意識障害、血圧低下、頻脈、HR/SBP>1.0が持続	B2：人工呼吸(RS1)	
	CPAIになった	P1：CPA	並列

## 【中間集計】



高次転送の経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
高次転送	A0-A1-A2-A3	22	37.9%	○	89.7%
	A0-A1-B2-B3-A2-A3	19	32.8%	○	
	A0-A1-B3-A2-A3	8	13.8%	○	
	A0-A1-B1-B2-B3-A2-A3	2	3.4%	○	
	A0-A1-A2-B3-B2-B3-A2-A3	1	1.7%	○	
	A0-A1-B2-A2-A3	5	8.6%	×	
	A0-A1-B1-B3-A1-A3	1	1.7%	×	
	計	58	100.0%		